

種名	カ イ ツ カ イ ブ キ <u>Juniperus chinensis cv. Pyramidalis</u> 				
	分類	常緑高木 ヒノキ科 ジャクシン属	俗称		別名
分布					
形態	イブキの園芸品種。高さは普通6～7mだが、20mに近くなるものもある。暖地でよく生育し、関西などではよく生垣にされている。生長するにつれて側枝がらせん状にねじれて主幹に巻きつくようになり、狭円錐形の独特な樹形になる。葉は密生し、ほとんどが鱗片状で、ごくまれに針状のものがでることがある。イブキの仲間はナシの赤星病を媒介するので、ナシ園の近くには植えない方がよい。				
類似種					
生育場所					
繁殖					
他生物との関係					
配慮のポイント					
トピック					
その他					
用途	庭木、公園樹				
引用文献：『山溪カラー名鑑 日本の樹木』を改変					